

## 学習内容報告書 フォーマット

学校名	大阪府泉南郡岬町立深日小学校
授業者	岡田良平

### 1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

#### 1-1. 単元名

漁師さんの言い伝えを調べよう

#### 1-2. 学年

第3学年

#### 1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

#### 1-4. 単元の概要

深日の漁師に伝わる言い伝えや縁起担ぎについて、岬町の町史にあたる『岬町の歴史』（1995）に簡単にまとめられている。そこには「出漁する際に、弁当に酔の物や揚げ物をいれない」や「梅干しの種を海に捨てない」等の縁起担ぎがあり、深日固有の漁師言葉である「逆ことば」とともに古くから伝わる漁師の文化として記録されている。こうした伝統文化等を地域の魅力のひとつと位置づけ、児童の学びを通して地域の歴史や文化を再発見してもらう機会としている。内容については岬町にある道の駅への掲示や金沢星稜大学の学生へのリモートでの紹介、担当教員による関西大学文学部と龍谷大学社会学部での学生への出前授業等を行った。



#### 1-5. 単元設定の理由・ねらい

深日の漁師に伝わる言い伝えや縁起担ぎについて3年生が調べ学習を通して海洋文化についても学習を深めることで多様な海洋教育の在り方を提案する。第3学年の児童が持つ自由な発想を最大限に生かすために、学習過程でいくつかある縁起担ぎについてクイズ形式にすることとした。その解答もまとめに入れることで読み手にとっても興味関心を持ってもらえるようにしている。

#### 1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・探究的な見方・考え方を働かせ、地域の魅力や課題を知り・気付き・自然や人とのつながりを通して、協働的に取り組むことでよりよく問題解決をしていく能力の育成。
- ・経験した知識を友達等と協力して、グループごとに模造紙にまとめることで、「書く」・「表現する」に関する技能を育成する。

1-7. 単元の展開 (全 8時間)

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	漁師さんの言い伝え（縁起担ぎ）クイズ	1. 担当が資料と漁師への聞き取り調査をもとにした漁師の言い伝え・縁起担ぎに関するクイズを作成。 2. 回答を記録 <評価> 意欲的にクイズに回答し、友だちの意見や回答に対して共感したり考えたりすることができたかどうか。
7	児童を3グループに分け、各グループが分担して言い伝えに関するクイズを模造紙に作成。  自分たちの回答をポップに書き写して紹介する。  資料や聞き取りから得られた正解を模造紙に書く	<評価> 読み手が楽しくなるように、イラストや回答のポップを工夫することができたかどうか。 <使用教材> 模造紙・絵具・ペン・色画用紙など
1	作成した模造紙をもとにオンライン中継授業でのクイズコーナーで使用	※オンライン中継授業の台本参照
3	<p>※担当教員らが児童が作成した模造紙を持参して関西大学文学部、龍谷大学社会学部、金沢星稜大学人間科学部にて出前講座を実施。</p> 	<p>&lt;評価および外部連携&gt; 児童が作成した模造紙を文学部の講義、社会学部(社会学)の講義、人間科学部(初等教育専攻)の学生に見てもらいながら講義した。</p> 

## 2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

### 2-1. 単元における位置づけ

単元  時間中の  時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

### 2-2. 本時の目標

・児童が作成した模造紙をもとに担当教員が授業の取り組みについて解説し、それぞれの専門分野からの視点での考察を行う。

### 2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>※大学の講義のため 90 分授業</p> <p><b>【関西大学】</b> 文学部の「人文地理学概説」での出前授業 ・テーマは「地域性とは、地域をどう捉えるか」に設定し、児童が地域学習を行うにあたってどのように地誌的内容を扱い、どのようにフォーカスしていくのかを考察。</p> <p><b>【龍谷大学】</b> 社会学部の 3 回生のゼミナールでの出前授業 ・テーマは「地域社会における学校と社会」と設定し、学校が「社会に開かれた教育課程を推進する」ことと、地域のコミュニティーと連携することの意義と課題について考察</p> <p><b>【金沢星稜大学】</b> 初等教育専攻の 3・4 回生のゼミナールの学生に「総合的な学主の時間」の進め方と地域連携のあり方について考察</p>	<p>地理学・社会学・教育学の専門分野ごとに結論と問いかけを変更して授業展開した。</p> <p>①パワーポイントを用いた深日小学校のこれまでの地域連携の取り組みについて</p> <p>②海洋研究の取り組みと I C T の推進について</p> <p>③学校と地域の連携について</p> <p>大きく分けて以上の 3 要素をもとにした講義を中心に児童の模造紙の作品や授業風景の動画や写真などを見る時間をとった。</p>

### 3. 今回の活動の自己評価

3大学とも90分の授業構成としては基本的に同じ教材（児童が作成した模造紙と授業展開及び地域連携の内容）を使用しながら、結論や課題の問いかけは各専門分野（地理学・社会学・教育学）の学生にフィットしたものに変えて講義した。特に金沢星稜大学は出前授業の最後だったこともあって、地理学や社会学を専攻する学生が講義でした質問、意見、感想を聞くことができたことで多様な見方や考え方ができたと講評だった。金沢星稜大学の場合、教職志望の学生であるということからも実際の学校現場の教員による先進的な取り組みに対しても自分事として捉えやすかったようである。しかし、最も重要であると感じたのは大講義室で開催した関西大学での講義やゼミではあるが専門外の龍谷大学の学生たちの反応である。「教育」、「小学校」、「海洋教育」といった内容を非常に真剣に聞いており、授業後のアンケート等でも非常に好意的な意見ばかりで担当した大学教授や我々も非常に驚いたことである。将来、教職をしていない学生たちにとっても、いつかは保護者や地域社会の一員として様々な場面で学校や教育に携わる機会がある。そうした時に、「地域をどう捉えるか」、「地位のコミュニティーがどう関わるか」という観点で考察できたことは非常に有意義であったと考える。



### 4. 今後の課題

講義後の大学教授らとの意見交換でも最も評価が高かった件は、①児童が作成した模造紙の実物を学生が直接見れたこと、②オンラインやオンデマンド型の講義ではなく、対面授業であったことである。コロナ禍の中で、緊急事態宣言が長く続いた大阪府下において、宣言が終了したタイミングを見計らって3大学での講義を実現することができた。特に児童が作成した作品を直接見た学生たちが笑顔になり、友人等と談笑し意見交換する様子を見れたことで授業者も成果を感じることができた。コロナ禍で制限が多くなり、特に大学での授業が対面で行われることが減っているという課題が非常にネックになっていると痛感した。また、感染リスクの観点から公共交通を利用せず、自家用車で移動したことも費用面で課題となった。

## 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書\_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書\_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。